

# 彫刻、天然記念物、名勝、史跡、書籍・典籍

～いにしえより伝わる人々の生きた証～

## 彫刻



**33 勝軍地藏**  
(鹿児島県指定)

鹿児島県下最古級の木仏像。永正3年(西暦1506)高城城主肥後文次郎盛明が太守島津忠昌を施主とし、子孫繁栄、武運長久、領内安穏を祈願し、建立。毘沙門天、多聞天を従え、邪鬼を踏みつぶしています。  
仏師は加治木かいはふの快扶とされています。



**34 中浜地藏** (垂水市指定)



**35 十三仏**

その他: 36 川地観音 37 高野神社のこま犬  
38 太崎観音 39 脇田の地藏 40 岩戸の観音  
41 井川観音 42 ひでり仏 43 牧の薬師如来  
44 俣江観音 45 岩下観音  
46 内山観音 など

## 名勝



**49 広田家庭園** (垂水市指定)

江戸時代、乗舟寺の和尚による作庭とされ、昭和42年、鹿児島大学の西田教授によると主木の梅の大木(今はありません)、石橋など假山石組座を主景とする風景式で全国的にも非常に少ない様式のものとのことです。

## 天然記念物



**47 高峠のツツジ** (垂水市指定)

高峠つつじヶ丘公園は、大隅半島のほぼ中央に位置し、峠の標高722メートルにあり、100種類、10万本以上のつつじが春になると色鮮やかに咲き誇ります。



**48 牛根麓稲荷神社の埋没鳥居** (垂水市指定)

桜島の黒神地区の埋没鳥居は有名ですが牛根麓にも大正3年大噴火で埋まってしまった鳥居が存在します。天正2年安楽兼寛より城の明け渡しを受けた島津16代義久は部下の伊集院久道を地頭に置き、島津家の氏神・稲荷神社を創建しました。

## 史跡



**50 岩屋観音堂跡と石塔群**  
(垂水市指定)

鎌倉初期から室町期。山伏の修行道場がありましたので道場観音とも。財宝伝説があります。



**51 島津氏久逆修塔と石塔群**  
(垂水市指定)

南北朝時代、島津第6代太守氏久は南朝方肝付兼重等を討つ際、武運長久や死後の供養のために逆修塔を建てました。

## 史跡



**52 浦内石塔群** (垂水市指定)

室町初期と推定。山川石できています。



**53 段の五輪塔** (垂水市指定)

石質は粗い凝灰岩で高さ90cm。鎌倉期から室町初期と推察されます。



**54 宝塔** (垂水市指定)

仏塔のひとつ。天文13年(西暦1544)、伊地知重武が下大隅を平定した時、月海寺を建立し、この塔を建てたと推定されます。梵字が刻まれています。



**55 宮脇(玉照寺跡)の石塔群**  
(垂水市指定)

玉照寺は江戸時代、心翁寺四世竜谷和尚により開山。石塔群は室町期のものとされ、当時新城は肥後氏の支配下にあり、その後伊地知氏へと移りました。



**56 諏訪石塔群** (垂水市指定)

宮脇(玉照寺跡)の石塔群と同系統のもので同じ室町期のものと推定されます。この石塔の中に板碑が1基ありますが、垂水市内で初めて発見された、歴史研究上貴重なものです。



**57 宇喜多秀家潜居跡** (垂水市指定)

天下分け目の関ヶ原の合戦に敗れた豊臣政権下5大老5奉行のひとり、宇喜多秀家は薩摩へ落ち延びます。西軍で共に戦った、島津義弘は、垂水市牛根の平野家に命じ、手厚かくまい、幕府に助命嘆願をします。秀家は2年余りにここに潜居した後、八丈島へ流され、八十余歳でこの世を去りました。

その他: 58 二川の石塔 59 弁天  
60 花蔵院跡 61 入船城跡と安楽備前守の墓  
62 みささぎ 63 六地藏塔  
64 牛根地頭島津越前守の墓 65 島津奇彬の造船所跡  
66 磨崖仏 67 早崎の壘と咲花平 68 臨海庵跡  
69 江之島の公卿石 70 桜島焼亡塔  
71 松岳寺跡と石井氏の古石塔 72 寿岳山西福寺跡  
73 浦役屋敷跡 74 田上地頭敷根中務少輔頼賀の墓  
75 孝子市太郎の墓 76 上之宮古石塔群  
77 新光寺跡と五輪塔群 78 福寿寺跡と伊地知氏の石塔群  
79 馬込の五輪塔群 80 俣江の石塔群  
81 相良リンコウの墓と石塔残欠 82 国一どんの墓  
83 山之口五輪塔 84 石幢 85 浄瑠璃寺跡  
86 本城宝塔群など

## 書籍・典籍 (垂水市指定)



**87 近世文学書類**



**88 奉納短冊**



# 田の神

## ～野辺にたたくみ豊作を祈る～

南九州特有の田の神さは、稲作をつかさどる神で、古代には食飯魂命（ウガタマノミコト）と言われていたのが、後世に田の神と呼ばれるようになりました。春になると山の神が里に下って田の神となり、秋のとり入れが終わると山に帰っていくと信じられていました。

拝めば豊作になり幸福が訪れると、今でも花や水が供えられているものもあります。

※はいぶつきしゃく 廃仏毀釈で壊されましたが比較的状态の良い田の神の表情は、区作に泣きながら、豊かな実りを祈った人々そのものようです。

※廃仏毀釈：明治初年、政府の神道国教化政策、仏教排斥運動。仏堂・仏像・経文などが破壊された。



89 1号 (新城)



90 2号 (原田)



91 4号 (田上)



92 5号 (市木)



93 6号 (中俣)



94 7号 (宮崎小路)



95 8号 (松ヶ崎)



96 10号 (深港)



97 12号 (中浜)

# 郷土芸能、 伝統行事

## ～後世に伝えたいふるさとの宝～



98 境棒踊り



99 二川棒踊り



100 中俣(下)川踊り



101 大野原棒踊り



102 八丁杵(原田)



103 浜平相撲甚句節



104 大津絵節(柞原)



105 新城鎌手踊り



106 御所の御庭踊り  
(新城)



107 浦川内の甚句節  
(新城)



108 おろごめ(柞原)



109 壁うっくじい  
(柞原)

垂水には多くの郷土芸能が伝承されていますが、その多くが兵士の士気を高めたり、五穀豊穡を祈願するものです。伝統行事には藩政時代から続く馬追いの行事“おろごめ”や、子孫繁栄を願う“壁うっくじい”など、ユニークなものがあります。昨今は少子、高齢化などが原因で、伝承が年々難しくなっています。